

## 議会報告会（令和4年度・上半期 事業）

開催日：令和4年5月14日（土） 午後1時30分 より 3時20分

参加議員：全議員

実施方法：オンライン方式（ZOOMを活用）

市民（参加者）は自宅から参加（事前予約）

議員は 登庁または自宅から参加

内 容：

第1部 全体「どう使われる？可児市の予算」 (予算決算委員会)

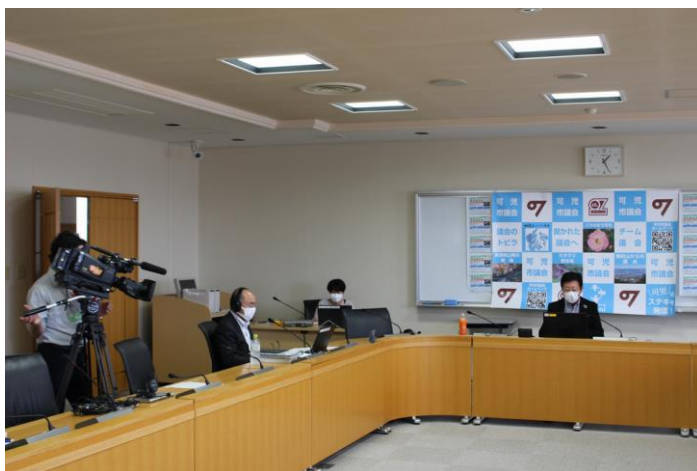
第2部 意見交換会（ブレイクアウトルーム）

「今こそ考えよう消防団活動」 (総務企画委員会)

「外国籍の人も住みやすい街って？」 (建設市民委員会)

「活用されているの？学校のタブレット」 (教育福祉委員会)

議会報告会（オンライン）開始 (進行：川上 広聴部会長)



参加者（46人）



開催日時	令和 4 年 5 月 14 日 (土) 午後 1 時 30 分～3 時 20 分 (全体)	開催 会場	オンライン方式 (ホスト：議会全 員協議会室)
参加者数	市民など 25 人、議員 21 人 (計 46 人)		
実施内容	第 1 部「どう使われる？可児市の予算 予算決算委員会からの報告」 午後 1 時 35 分～2 時 10 分		
質疑および 主な意見等	<p>進行：伊藤 壽 予算決算委員会 委員長 記録：勝野 正規 " 副委員長</p> <p>午後 1 時 35 分～ 「新年度予算についての報告」 予算決算委員会 伊藤 壽 委員長</p> <p>午後 1 時 55 分～ 質疑応答 (主な意見と回答など)</p> <p>参加者①：新年度予算への提言の反映のうち、地区センターの役割について、具体的な予算化や事業展開はあるのか。 回 答：新年度は具体的な予算の計上は無い。地域の拠点としてどう活動していくか、また活用しやすい活動経費の見直しを 市とともに検討することとしている。 議員の中でも「地域応援制度構築のための意見集約プロジェクトチーム」を発足し、地区センターの使い方や利用の仕方について見直しを進めている。</p> <p>参加者②：新年度に行う「デジタル人材育成」の注目ポイントは どこか。 回 答：女性に特化した初めての事業であること、国が支援する事業であり、単発ではなく何回かに分け指導を受けられること、コロナ禍で難しくなっている女性の雇用に着目していることなど、がポイントと考える。</p> <p>参加者③：予算決算サイクルの新年度予算への提言について、今回はどのぐらいの手応えを感じているか。 回 答：今回市長へ提言したのは 4 項目で、「地域経済の支援策」は 1 億 3300 万円で、そんなに増額してないかもしれない。「地区センターの地域拠点化」については、新年度に検討していくこととしている。「道路維持費」については、生活道路については対応できていると考える。「ICT 教育の推進」については、議会の意向が反映されていると思う。</p>		

参加者④：可児市は 学校での1人1台パソコン整備などが進んでいる。今後 高齢者を含めた可児市全般の ICT 推進に向けてのロードマップはあるか。

回 答：可児市は まずは内部的な DX (デジタル・トランスフォーメーション) を進めている。最先端の自治体と比べると少し遅れているかもしれない。市民の DX 化についてはまだまだで、今後行政の DX 化を推進していく中で踏み込んでいく。  
現在は過渡期であり、議会も一般質問や委員会などで見届けていく。

(反省点・今後の課題)

- ・「報告」という趣旨から、どうしても一方的な説明になってしまった。一部議員には発言いただいたが、参加者を含めた双方向の利点を活かしてきっていない
- ・40名以上の参加者全体の 気配り・目配りをするには、ホスト側の経験値の積み重ねも必要である。

令和4年5月16日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

予算決算委員会 委員長 伊藤 壽

第1部「どう使われる？可児市の予算」 (説明：伊藤 壽 予算決算委員長)



開催日時	令和4年5月14日 午後2時20分～3時05分	開催会場	オンライン方式
参加者数	市民12人 議員7人 (計19人)		
実施内容	第2部 テーマ1「今こそ考えよう消防団活動」		
質疑および 主な意見等	<p>進行：野呂和久 総務企画委員会 委員長 記録：天羽良明 " 副委員長</p> <p>市民メンバーは 消防団部長経験者や自治会長、そして若い世代消防団員未経験者、若い市民の考えを中心に意見交換を行った。</p> <p>(主な意見と回答など)</p> <p>市民A：操法大会の代わりに行う18日間の訓練とは？ 回答：全団員、水出し（放水）が出来るように訓練する。 また、山際、川沿い等の地域性を考慮し適切な初動がとれるよう団単独や合同訓練を計画する予定。</p> <p>市民B：消防団の意義は？ 回答：消防団に入団して同じ目標に集中して努力することで団員の結束が深まる。訓練を通して、ケガの予防や対応スキルを取得する。地域の安心に貢献する。 現場にて、水利の確保や通行止め等、消防署の消火を補佐する。</p> <p>市民C：消防団活動を知らない。団員の職務も分からない。 例えば報酬がいくらか、大学の就職活動に有利な証明書があるのか等、入団を検討するための事前情報が欲しい。 回答：本年度より出勤につき8,000円が団員に直接支払われる。</p> <p>市民D：自治会長として、団員募集に協力したが、どこに対象者が住んでいるか苦労した。また、訪問しても本人に会えないケースがあった。</p> <p>市民E：自分の居住地域では、機能別消防団を検討している。 市内16分団、各団の欠員が多く、勧誘の困難さが覗える。 また、日中の火災発生時に緊急出動できるメンバーが集まらない場合をカバーするため、消防団OBを中心として自警団結成を目指している。このような機能別活動のため予算の確保を要望する。</p>		

令和4年5月14日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

総務企画委員会 委員長 野呂 和久



開催日時	令和4年5月14日(土) 午後2時20分～3時05分	開催 会場	オンライン方式
参加者数	市民など6人、議員7人(計13人)		
実施内容	第2部 テーマ2「外国籍の人も住みやすい街って？」		
質疑および 主な意見等	<p>進行：中村 悟 建設市民委員会 委員長 記録：奥村 新五 " 副委員長</p> <p>意見交換では主に ① 子育てにおける課題と、② 自治会としての関わりについて様々な意見や質問が出された。</p> <p>(主な意見など)</p> <p>①子育てにおける課題について</p> <p>Aさん(来日22年、うち可児市在住7年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可児市が一番住みやすい。ずっと可児に住みたいという人、可児に家を買った知人もいる。</li> <li>・一番の課題は子育て。言語の壁があり、どのようなサポートがあるのか、窓口がどこかなどわからないことが多い。3歳児健診で発達の遅れに気づくことが多く、サポートや手助けが欲しいがどうすればいいかがわからず困っている親が多い。</li> <li>・日本人と外国人が触れ合うイベントが増えるといい。</li> <li>・外国人のサポートが他市に比べると充実している。フレビア、市役所の通訳、病院やクリニックにも通訳がいるなど。</li> </ul> <p>Bさん(市国際交流協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て、保育園、学校についてはサポートが手厚いが、公共の子育て支援施設を使おうと思っても日本人の相談員・指導員しかいないなど、外国籍の人は日本人が思っている以上にハードルを高く感じているということが当事者インタビューで確認されている。</li> <li>・言語がわかるスタッフがいるのが一番だが、それ以上に話しかけやすい体制や、申込用紙にルビがふってあったり、簡単な翻訳がされていたりといった案内があると利用しやすいと思う。</li> <li>・発達課題については、大切な節目である健診のときは少し専門的な勉強をしている通訳がいると違うのではないかと感じている。</li> </ul> <p>Cさん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の発達についてだが、外国から来られた方は言語の問題により、意思疎通がうまくいかず発達の問題としてみられる危険性があるのではないかと感じる。そのため、密にフォローしていく必要があると感じる。乳幼児期のこういった問題について、市としてはどう捉えているか。</li> </ul> <p>→ 通訳は、日本人の相談員と外国籍の方をつなぐ役割を担うが、専門的知識を持っているわけではないため、そういったアドバ</p>		

イスは現実的には難しい状況ではある。

②自治会としての関わりについて

Dさん（自治会役員）

- ・近年、アパートに外国籍の方が多く入居し、ごみ捨てマナーや夜の騒音など課題が生じた。日本語が話せるかどうかの状況を調査し、国ごとにリーダーをつくろうとしており、ルールの周知を図っている。
- ・今後は、こども会も外国籍の人を中心に運営していく必要がある。
- ・正しく出されずに回収されなかったゴミがたまるため、自治会の費用で民間に依頼して片付けている。そういったことをしなくて済むようにこちらも外国籍の人を理解しながら、あいさつ運動などをはじめとして、マナーが根付くように取り組んでいる。
- ・自治会加入のメリットを説明する一方、自治会の状態、性格等 私たち自身も直していく必要があると思っている。

議員

- ・子育てでは「きっかけ」、地域力、地域の普段のコミュニケーションが必要。自治会は任意のため強制できないが、市全体の自治会加入も6割程度で年々下がっている。外国籍の人でも自治会に入ってもらおうと手取り早いですが、それは日本人の今までの考え方の延長線であるため、無理が生じている。自治会運営を見直す時期。
- ・国際交流協会に頼りすぎており、市民レベルにまで問題意識が浸透していないことが一番の問題ではないか。共生社会のために、地区センター祭りやイベントなどといったふれあい、きっかけづくりを通じて既存の住人と新しい住人とのコミュニケーションを図ることが最も大切では。

Eさん（自治会役員）

- ・自治会自体で外国籍の把握はできていない。地区でどう取り組んでいけば子どもたちの実態がわかるのかなどを教えていただきたい。

Cさん

- ・今年度の事業で、各地区センター、自治連合会長、センター長に地域の実情を聞いて回っている。どうしたら元々の住民と新しく来た住民が交流していけるか、地域情報を外国籍の人に伝えていけるかに取り組んでいきたいと思っている。

令和4年5月17日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

建設市民委員会 委員長 中村 悟



議会報告会実施報告書

第2部③ 教育福祉委員会

開催日時	令和4年5月14日(土) 午後2時20分～3時05分	開催 会場	オンライン方式
参加者数	市民など7人、議員7人(計14人)		
実施内容	第2部 テーマ3「活用されているの?学校のタブレット」		
質疑および 主な意見等	<p>進行：川合敏己 教育福祉委員会 委員長 記録：中野喜一 " 副委員長</p> <p>意見交換では参加者から</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① フィルタリングの状況</li> <li>② ゲームアプリのインストール状況</li> <li>③ 家庭訪問の代わりに先生と保護者が活用可能か</li> <li>④ 学校現場での活用状況を詳細に知りたい等、 様々な質問や意見が出されました。</li> </ol> <p>(主な意見と回答等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可児市ではタブレットの持ち帰り頻度も近隣市町村と比べても遜色なく、wi-fi環境未整備家庭への端末の貸し出しやIT支援員も各校に配置済みである。ハード面の問題は解決済みであると思われる。</li> <li>・OECD加盟国の中でICT活用度は最下位争いをしていて、新型コロナウイルスの拡大に伴うGIGAスクール構想の前倒しが今日の混乱に拍車をかけている。</li> <li>・学校側は教員間のスキル是正に追われ、生徒側も学年による利用格差が大きい。保護者側も自身のSNSスキルに関わらず子どもの学習環境を整える必要性が生じてくる。</li> <li>・幼少期からスマホやゲーム機に触れている生徒たちは対応が早いですが、</li> </ul>		



	<p>教員側には伝達活用能力の向上が、保護者側には学習環境の維持継続が求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・回答として、子どもたちの ICT を利用した学習環境の充実のため、議会から市に教員の研修体制の確保などを提言し、今年度予算に小中合計約 1300 万円予算化されている。</li></ul> <p>課題解決にはもう少し時間を要するであろうが、委員会として今後の動向を注視していく。</p>
--	--

令和 4 年 5 月 17 日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

教育福祉委員会 委員長 川合 敏己

